

滋賀県政の行く末を左右するに とどまらない闘いが始まる！



【理 念】

- 「いのち」を守り、「人の力」を活かす「草の根自治の滋賀」を発展させる
- 琵琶湖や自然と共に生き、全ての人に居場所と出番がある「共生社会・滋賀」をつくる
- 「滋賀の力」を伸ばし、活かし、力強く持続的な「経済と雇用の滋賀」をつくる



【共同代表：三日月大造、嘉田由紀子】

We Love しが 県民のみなさんと共に さらに一步を！

三日月 大造 (43歳)

プロフィール

- ・ 大津市立日吉台小学校卒業
- ・ 県立膳所高校卒業
- ・ 一ツ橋大学経済学部卒業
- ・ 1994年 J R 西日本入社
- ・ 2002年(財)松下政経塾
- ・ 2003年衆議院議員初当選
- 国土交通副大臣
- 国土交通大臣政務官
- 民主党筆頭副幹事長
- 民主党滋賀県連代表
- など歴任4期連続当選



滋賀県知事選挙

6月26日(木) 告示
7月13日(日) 投票

連合滋賀高退協 第7回グラウンドゴルフ大会 開催日：9月3日(水)

りりしっしっ、滋賀

第43号 2014.6.20
発行所：連合滋賀高退協
発行責任者：吉川 浩次
編集責任者：山崎 長榮
大津市松本2丁目10-6
TEL 077-523-0500
FAX 077-523-5600

安心して老年期を迎えられる 国づくりをしよう！

～介護保険制度の改悪は 絶対許さなぬ！～

自公政権が発足して1年6ヶ月が経過しようとしているが、1強多弱の政治情勢は変わらず、自公政権による強引な国会運営が展開されている。

私たち高退協が、今年の課題としている、高齢者福祉に係わる「介護制度改善」を求めて、対政府要求を提出しているにも関わらず、去る5月19日に「介護保険制度の見直し法案」を与党単独で強行採決するという暴挙にでた。これは介護保険の個人負担額を1割から2割に引き上げるほか、要支援者の条件切り下げにもつながる大問題である。日本高齢退職者団体連合は、今年7月15日に平成26年度総会を開催し、この介護問題についての今後の対政府要求の方針を明らかにする。

新たな労働時間制度を求める「残業代ゼロ制度」も当初は、厚生労働省も「時間外労働の拡大」を懸念して反対の態度をとっていたが、安倍総理の強引さに負け「条件付き賛成」に変更した。連合は「残業代不払いの増長につながる」「労働者代表を加

えない機関での審議結果」として反対していることは言うまでもない。

さて、滋賀県においては、6月26日告示、7月13日投開票で滋賀県知事選挙が施行される。この選挙に民主党衆議院議員三日月大造氏が、数少ない民主党衆議院議員の席を辞してまで、知事候補として立候補した。三日月候補のこの決意を無にしないためにも勝利しなければならない闘いである。

かつて、今の連合が発足する以前、私たちが現役の頃、滋賀県を全域とする選挙で滋賀県知事選挙、参議院滋賀選挙区選挙で「労働4団体共闘」「労4滋賀方式」として全国的に有名になり、知事選挙では、武村正義知事を、参議院選挙では山田耕三郎氏と中村鋭一氏の勝利を勝ち取った経験がある。

退職者連合の会員は当時のことを思い出し、現役の連合組織は集票能力を一層高め、文字通り現・退一致で勝利に向けて闘おう。



いきいき
元気に活動中

UAゼンセンシニア友の会活動
= 人会者を増やす運動に総力を =

～仲間同士の
“連帯感” “絆” を育む～

UAゼンセンシニア友の会は、産業別組織UAゼンセン加盟組合員の退職者会であり、組合員として5年以上、年齢が満75歳未満、一括納入会費18,000円納入者で全てが終身会員となります。

それぞれの加盟組合のOB・OG会をタテ組織とし、それを都道府県ごとの会員の居住地で、つまりヨコの組織として都道府県単位に支部を設けて繋がりを持っている組織がシニア友の会の位置づけとなります。会員数は全国で男子24,000名、女子3,500名計27,500名前後。滋賀では約2,500名が現役組合員と一体となり会員相互の親睦交流を中心に福祉共済事業で楽しい連帯と福祉の増進を目指しています。



*当面の重要課題
「会員拡大に全力を」

当面の課題として全国的な減少傾向にある会員動向に歯止めをかけ拡大に結びつけないと岐路に立たされています。そこで2012年に「組織検討委員会」を設置し、各加盟組合の現状と今後の取り組みについて論議し、その論議を踏まえ今年度は実態調査を行いその結果を基に、方向性と仕分けを行い具体的に成果のあがるように努力を重ねている最中であります。

また身近な未加入者への勧誘オルグ、現役組織の機関会議との意見交換などを進めていきたいと考えております。(具体的に4月16日に現役機関会議第4回運営評議会で行動を確認した。) これらの任を司る執行体制は、支部長の他に加盟組合代表者幹事19名顧問3名事務局5名で構成しており、今年度の総会において長年ご活躍いただいた勝田支部長(東レ)にかわり、福家淑(ゼンセン)が支部長に選出されました。

行事としては、総会及び研修会、グラウンドゴルフ大会、役員研修会等を行っています。

コラム

～地域で高齢者と共に生きる
街づくりに参加して～

連合滋賀高退協の幹事の一員として参加して3年程が経過する。退職した女性たちも多くいると思われるが、役員会で出会うことは殆んどなく寂しい限りに思っている。

高齢者集会で、かつて連合女性委員会で活動した仲間に出会った。役員の一員になって一緒にやってみないかと声をかけてみた。「退職して組織で行動することより、孫育てに忙しいし、親の介護もあるし、趣味が高じて手作りの作品作りが楽しくて働いていた時やれなかったことを楽しんでいるは」との返事に納得してしまう。

地域に根を這って幅広く関わり、楽しんで暮らしておられる女性たちに共感する。私が住む津南市南部の石山学区も高齢化が進んでいる。学区にある社会福祉法人に関わり、高齢者が安心して共に暮らしていける街づくりのプロジェクトに参加している。

私が住む街は、高台にあり1970年後半から31年間以上住み続けている人が多い住宅地となっている。高齢者人口(65歳以上)は、43%となっている。周辺の住宅地の高齢者人口も40%以上となっている。

プロジェクトチームでは、住民の皆さんに「今、不便に感じていること」「これから将来不安に思っていること」などに答えていただき現状を把握した。地域で何が出来るかを検討していく基礎的資料づくりに取り組んだ。

今年の1月、わが街の30軒余りのお宅を訪問して、面談聞き取りに協力いただいた。周辺の住宅地も含めて204軒余りの聞き取りが出来た。

移り住んだ若い世代の時には、想像していなかった問題が出てきている。自然豊かで静かな環境を望んで住んだ街も、坂の上に住む人と坂の下に住む人とで「移動手段」に対する困りごとが大きく異なっている。坂の上の人ほど買い物や通院に困っている人が多いことが把握できた。

顔を合わせて話を聞いて見ると「今は、車で移動しているけど病気になって車の運転が出来なくなったら不安。」「老夫婦で暮らしているが、病気になってからは夜になると不安が増幅する。」「子供は遠くにいて、すぐに来てもらえない、やっぱりご近所様やと思う。」切実な声が伝わってくる。

自分達が住む街で何をしていけば、次の世代に引き継いでいけるのか少々焦りつつも模索し行動している。



連合滋賀高退協 幹事
滋賀県退職教職員協議会
清水 明美

近ブロ ハイキング(京都：宝ヶ池)
10月29日(水) 決定!!